

報 告

透析患者の歯科受診を推進するためのツールとしての医療職 および患者向けリーフレットの開発

吉岡 昌美¹⁾ 板東 高志²⁾ 白山 靖彦³⁾ 井本 逸勢⁴⁾
柳沢志津子¹⁾ 横山 希実⁵⁾ 竹内 祐子³⁾ 日野出大輔⁶⁾

概要：透析患者は飲水制限、糖尿病の合併などにより口腔乾燥や歯周病のリスクが高い。透析患者の多くはかかりつけ歯科医院をもつものの、定期的に歯科を受診している者は比較的少なく、また透析実施医療機関において歯科受診が勧奨されているケースは極めて少ない。このような現状を踏まえ、透析患者の口腔管理に関して、受け入れ側となる歯科医療職と常に患者に接している医科スタッフの双方が共有すべき情報を記載した『医療者向けリーフレット』と、透析患者の歯科受診勧奨の介入ツールとしての『患者向けリーフレット』を開発した。これらのリーフレットを徳島県歯科医師会の会員に対して郵送し、リーフレットの有用性について質問紙調査を行った。その結果、9割以上が“とても役立つ”もしくは“役立つ”と回答した。以上のことから今回われわれが開発したリーフレットは透析患者の口腔管理を担当する歯科医療職にとって有用である可能性が示された。

索引用語：透析患者， 歯科受診， リーフレット， 医科歯科連携

口腔衛生会誌 67：84-88, 2017

(受付：平成 28 年 7 月 19 日／受理：平成 28 年 9 月 27 日)

はじめに

近年、慢性腎臓病や人工透析患者の病態や予後に口腔の慢性炎症が影響する可能性を示唆する学術論文が散見されるようになってきた^{1,2)}。また、人工透析治療に携わる医療従事者の間でも透析患者の口腔管理に注目が集まるようになってきている^{3,4)}。

血液透析患者の歯科治療を行う際には、抗凝固薬による易出血性、低たんぱく血症や貧血などによる易感染性、高血圧や糖尿病、骨粗鬆症などの基礎疾患や投与薬剤等に特別な配慮が必要であり、特に、抜歯などの外科的処置を行う場合は透析医との連携が必須となる⁵⁻⁷⁾。また、透析患者は飲水制限、糖尿病の合併などにより口腔乾燥や歯周病のリスクが高いことから、予防的な歯科受診が望まれる。以前われわれは透析医療機関を対象とした全国調査を行い、外来の血液透析患者のほとんどが歯科部門をもたない医療機関で透析治療を受けている

ことを報告した⁸⁾。血液透析治療を受けている外来患者を対象とした意識調査を行った結果、①医科で歯科受診を勧められた経験がほとんどないこと、②かかりつけ歯科医院はあるが、定期的な受診ができていない患者が多いこと、③予防的歯科受診に対する患者の意識が低いこと、④症状があっても受診した歯科医院でも予防管理を勧められたことがない患者が多いことが明らかとなった⁹⁾。これらの調査結果から、透析患者の口腔管理を推進するためには、患者だけでなく、医科スタッフ、歯科スタッフ、3方向への働きかけが必要であることが示唆された^{9,10)}。そこで今回われわれは、受け入れ側となる歯科医療職と常に患者に接している医科スタッフの間で透析患者の口腔管理に関するコンセンサスを得るための媒体としての『医療者向けリーフレット』と、この内容に沿った『患者向けリーフレット』とを用いて、透析患者に歯科受診を勧めていただくシステムを着想し、これらのリーフレットを開発するに至った。

¹⁾ 徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔保健福祉学分野

²⁾ 社会医療法人川島会 川島病院歯科口腔外科

³⁾ 徳島大学大学院医歯薬学研究部地域医療福祉学分野

⁴⁾ 徳島大学大学院医歯薬学研究部人類遺伝学分野

⁵⁾ よこやま歯科

⁶⁾ 徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔保健衛生学分野